

請島の昆虫（2018年）

金井 賢一

Insects Collected on Uke-shima (Amami Islands) in 2018

Kenichi KANAI

はじめに

2018年9月、請島にて昆虫を調査する機会を得た。本調査は、ウケジママルバネクワガタ（アマミマルバネクワガタ請島亜種 *Neolucanus protogenetivus hamaii* Mizunuma, 1994）の生態写真撮影を重点に、請島の昆虫を移動博物館事業「博物館がやってきた in 瀬戸内町」（2018年12月開催）にて紹介するため、資料収集を行ったものである。

ウケジママルバネクワガタは、2016年環境省が国内希少野生動植物に指定しており（図1）、それ以前は2004年に鹿児島県希少野生動植物に指定されていた。また、1996年に瀬戸内町天然記念物にも指定されている。このように複数の保護対策がとられ、現在、生体の採集は原則禁止されている。また、瀬戸内町では請島の大山地域への立入を制限しており、事前に入山許可を申請した後に、地元の池地みのり会会員の同行なしでは入山できないとしている。



図1. 大山の入口でウケジママルバネクワガタの保全を訴える看板

調査にあたり、瀬戸内町には大山入山の許可を頂いた。また、調査には瀬戸内町文化財保護審議員の服部正策氏、瀬戸内町教育委員会社会教育課長：泉重行氏、瀬戸内町立図書館・郷土館館長：重村一人氏、同郷土館文化財係長：町健次郎氏、池地みのり会の益岡一富会長、三ノ京浩人氏、南五郎氏の方々に同行して頂いた。厚くお礼申し上げる。

1. 調査日程

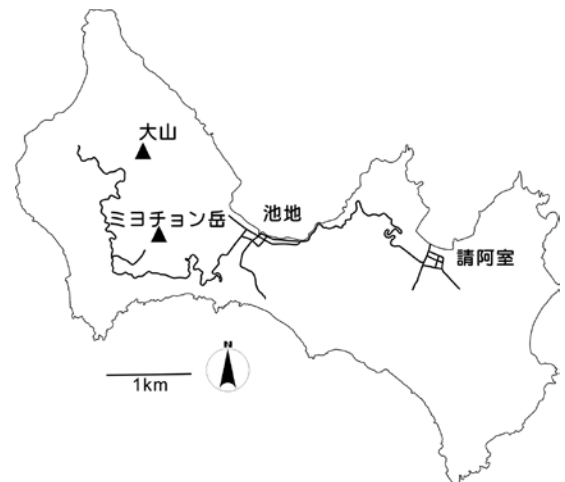


図2. 請島調査地

9月16日（日）古仁屋港着6時30分、古仁屋市街地にて採集→古仁屋港10時発：町営定期船せとなみ→池地港11:05着、13時打合せ→大山・ミヨチオン岳→宿にて夕食→19時発大山・ミヨチオン岳→23時宿着。島内の移動はみのり会の車に同乗。

17日（月）宿8時発→大山～集落→宿にて昼食→池地～請阿室～池地。島内の移動は徒歩。

18日(火)池地港7時25発:町営定期船せと
なみ→古仁屋港8時40分着, きゅら島交流
館にて移動博打合せ→古仁屋発10時30分:
バス→名瀬着12時, その後レンタカーを借
りて, 龍郷町の奄美自然観察の森周辺で調
査を行い終了。

2. 調査結果

(1) ウケジママルバネクワガタ

今回調査許可を申請したところ,「瀬戸内町にも標本を撮影した資料しかないので, 生態写真を町に提供して欲しい。」との依頼を受けた。必ず見られるというものではなく, かなり責任の重さを感じての調査となった。

16日の午後, 日中に夜間観察する場所の下見に行った。ススキのヤブに行く手を遮られ引き返した時, 1頭のオスが足下を歩いていた(図3はその環境)。あっけなく見つかり8人全員で大笑いしたが, 生態写真を撮るにはあまりにも背景が悪い。また, なぜこのようなところを歩いていたのか, 全く説明がつかなかった。シイの根に止まらせて写真を撮影したが, 大分弱っているのか, 重量を軽く感じる個体であっ



図3. ウケジママルバネクワガタが歩いていた林道



図5. ウケジママルバネクワガタが飛来したマツの材

た。また, この時ヒヤンのきれいな個体にも遭遇した(図12)。

16日の夜には, 林道沿いの開けた場所に灯火採集の道具を仕掛けて(図4), ミヨチヨン岳を登山しながら, シイの樹洞を見てまわった。30本程度の樹洞を覗いたが, ウケジママルバネクワガタは全く見られなかった。ほとんどの樹洞は大きなカマドウマの仲間(種名不明)とヤマナメクジばかりで, クワガタの死体も落ちていなかった。21時過ぎに林道に降りてきたところ, 灯火採集のバッテリーが切れており, 点灯し直した。その後周囲を探索していた服部氏が, 飛来していた本種を発見した。松枯れのために伐採して積んでおいたマツ材に飛来しており(図5), 期待していた環境と違ったが, 「実際にウケジママルバネクワガタが飛来した場所」ということで, その場で撮影した。

このように, 16日の調査で2オスを撮影することができた。2018年はこの日まで, 奄美大島の油井岳でも観察できなかったということで(服部氏, 私信), 非常に恵まれた結果であった。

なお, 今回撮影した写真データは池地みのり会に提出した。今後使用する際には「池地みのり会提供」



図4. 灯火採集道具の設置環境



図6. アマミハンミョウ(2005年11月奄美大島にて撮影)

というクレジットを入れて使用することになる。

(2) アマミハンミョウ

アマミハンミョウ *Cicindela (Sophiodela) ferriei* Fleutiaux, 1895 (図6) は、奄美大島、加計呂麻島、徳之島に分布記録がある、奄美群島の固有種である。5月から11月に成虫の観察記録があるが、多いのは5月下旬から7月下旬にかけてである。請島・与路島での記録がなく(以上榎戸, 2014), 今回の調査で注意していた。

結果として、9月16日古仁屋周辺、請島(大山)、17日請島(池地~請阿室)、18日龍郷町の奄美自然観察の森周辺で、全く見られなかった。服部氏に聞いても、奄美大島で9月に入ってから見た覚えがなく、2018年は少なかったとのことである(服部氏, 私信)。また、奄美自然観察の森職員の川畑力氏からも、9月になり観察の森周辺で見ないと、後日伺った(川畑, 私信)。

2018年9月に請島で本種が見つからなかったが、分布空白であるのか、発生期ではなかったのか、今回の観察からは判断できない。今後も機会のある度に、注目しておくべき種である。

(3) ヤマトタマムシ 奄美・沖縄亜種

ヤマトタマムシ 奄美・沖縄亜種 *Chrysochroa fulgi-dissima alternans* Watterhouse, 1888 は、鈴木(2017-2018)によれば奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄本島、久米島に分布記録がある。今回初めて請島にて記録する。

17日15時30分頃、池地集落内の墓地に生えているリュウキュウエノキの大木に、アカボシゴマダラが飛来していた。撮影していたところ、本種1頭が飛

来した。激しく飛び回るので撮影できず、捕虫ネットで捕獲した。なお、13時過ぎには池地港の近く、海岸線沿いの電柱に止まる本種を目撃したが、採集できなかった。

(4) その他目撃した昆虫

大山ではリュウキュウハグロトンボのオスが川沿いでなわばりを形成していたが、暗くてうまく撮影できなかった。大山山中ではオオシマゼミ(図11)、リュウキュウアブラゼミが多く鳴いていた。アカボシゴマダラは数は多くないものの、1♂採集できた。ツマベニチョウ、ツمامラサキマダラなども新鮮な個体があり、秋になって新世代の羽化が始まっているように思われた。

終わりに

今回の調査に同行して頂いた瀬戸内町教育委員会、池地みのり会の皆さんも、ウケジママルバネクワガタの生体を見るのは初めてということで、興奮しておられた。看板やチラシでの啓蒙活動だけでは足りない、本物に触れるという体験ができ、有意義であった。

2018年12月に開催した移動博物館事業でも、生態写真の他、各種の標本も展示した。来場者から「初めて見る。」「どこかで見たことがある。」という話を聞きながら、それぞれの種の説明を行うことで、地域の昆虫をより身近に関してもらえたと思う。

離島を多く抱える本県としては、責任を持って各地域の文化振興に寄与していきたいと、強く自覚した経験であった。



図7. 池地港から見た大山・ミヨチヨ岳

引用文献

榎戸良裕 (2014) 鹿児島県のハンミョウ科 - 今までに蓄積されている情報と課題 - Satsuma (151) : 1-27.

鈴木 茂 (2017-2018) 日本列島の甲虫全種目録.
<https://japanesebeetles.jimdo.com/> (2019年1月20日閲覧)



図8. 灯火に飛来したウケジママルバネクワガタ (池地みのり会提供)



図9. ススキ原を歩いていたウケジママルバネクワガタ (池地みのり会提供)



図10. アカボシゴマダラ



図11. オオシマゼミ



図12. ヒャン